

大地震時等の通電火災にご注意を

予防指導課

大地震時は、火災が同時多発的に発生し消防力の不足が予想されます。日頃から通電火災対策を行い、いずれ必ず発生する大地震に備えましょう！

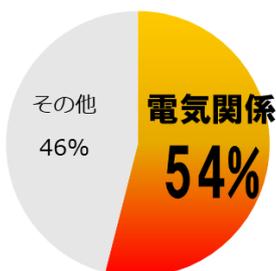
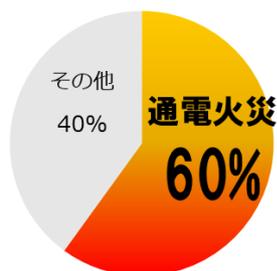
1 通電火災とは

地震や風水害によって停電が起こった場合に再通電時に電気機器又は電気配線から火災が発生すること。

2 通電火災の恐ろしさ

阪神・淡路大震災

東日本大震災



グラフからもわかるように、大地震発生時における火災の半分以上は通電火災（電気関係）によるものです。

日頃から地震火災の防止対策を行いましょう。

地震時の通電火災にご注意



3 通電火災に対する日頃の備え

通電火災に対する日頃の備え

①家具等の転倒防止対策（固定）

家具が倒れ、電気コードを破損させること

による再通電時の火災を防止します。

②感震ブレーカーの設置

揺れを感知するとブレーカーを自動で落としてくれるため、再通電時の火災を防止します。

③ストーブ等の周辺を整理整頓

ストーブなどが転倒した場合、火が燃え広がるのを防止できます。また、倒れると自動で消える安全装置の付いた製品を使用することもおすすめです。

4 停電発生時にすべきこと

以下の、ポイントを参考に落ち着いて対応してください。

- ①停電中は電気機器のスイッチを切るとともに、電源プラグをコンセントから抜きましょう。
- ②避難するときはブレーカーを落としましょう。
- ③再通電後は、しばらく電気機器に煙、においなどの異常がないか注意を払いましょう。また、電気機器に破損がないか確認してから使用しましょう。
- ④建物や電気機器に外見上の損傷がなくても、壁内配線の損傷や電気機器内部の故障によって、再通電から長時間経過した後に火災に至る場合があるため、煙の発生等の異常を発見した際は、直ちにブレーカーを落とし、消防機関に連絡してください。

感震ブレーカーを設置しましょう!!

